

LOCUS OF MY PLEASURE

【●講演録●】

楽しみの 軌跡

ローイングと船作り

堀内浩太郎



【●講演録●】
楽しみの軌跡
ローイングと船作り

堀内浩太郎

【●講演録●】

楽しみの 軌跡

ローイングと船作り

堀内浩太郎

k o t a r o h o r i u c h i



LOCUS OF MY PLEASURE

【●講演録●】

楽しみの 軌跡

ローイングと船作り

堀内浩太郎

k o t a r o h o r i u c h i

目次

006	米寿を迎えて
007	私の略歴
008	ボート五輪代表きまる エイトに東北大
010	横顔
012	オリンピックの戦い
013	ボート回想80年
.....	
017	ボート回想80年 [2006(平成18)年12月2日 東京図南会忘年会における講演]
018	はじめに
019	1 漕手の頃
	運命の二高 東大漕艇部がただ一人 善照漕法 千葉四郎さん 横浜ヨット レバーレシオ
	ボートを楽しむ
023	2 ローマ五輪まで
	初めてのコーチ 根岸、高村コーチ 合宿所から通勤 機動力と計測技術 日本代表まで
	ローマにて
027	3 東京五輪大会
	日漕選抜クルー 国立大学の反対 絶対に負けられない 北海道合宿 オリンピック・レース
029	4 再び東北大と
	きっかけは楽しいボート 佐鳴湖合宿 調和漕法 戦績
031	5 別件
032	6 アトランタ五輪に向けて
	アトランタ造艇研究会 船型の研究 オフセットブレードの開発 空気抵抗との戦い
036	7 アテネ艇プロジェクト
037	8 海のスカル
038	9 夢
.....	

039 ブレードが水に引っ掛かる位置で艇速は決まる

[2008(平成20)年11月7日 三菱ボートクラブにおける講演]

- 040 1 奥の水(後ろの水)を掴むこと
- 041 2 デッドポイントを合わせること
- 043 3 キャッチは脚のドライブで
- 045 4 ボディスピード(の運動エネルギー)は腕で吸収する

047 愉快に漕げば強くなる [1999(平成11)年10月31日 会津高校端艇部創部百周年記念講演]

- 048 I 私とボート
- I-1 無い無いづくしの頃に
- I-2 社会に出て
- I-3 毎週荻野に通う
- I-4 東北大のコーチ
- I-5 再び東北大のコーチを引き受ける
- 051 II 新兵器にまつわる話
- II-1 8ミリムービーと35ミリスチールカメラ
- II-2 100mごとのタイムを取る
- II-3 風向風速換算図
- II-4 ランプ式漕力計
- II-5 DRT
- II-6 連写分析
- 055 III 大切な漕ぎのポイント
- III-1 キャッチの引っ掛かりを見る
- III-2 良いストロークのミドルの姿勢
- III-3 フィニッシュを押す
- III-4 レンジを伸ばす
- III-5 ハイピッチの練習もする
- 056 IV 愉快に漕げば強くなる
- IV-1 無い無いづくしも悪くない
- IV-2 クルーが目に見えて強くなる時
- IV-3 スクラッチレースに勝つ楽しみ
- IV-4 レースそのものを楽しむ
- IV-5 新兵器を使う
- IV-6 まとめ

.....

059

ボート開発60年

[2011(平成23)年11月15日 平成23年度中小造船業・船用工業経営講習会における講演]

060

1 はじめに

060

2 海

2-1

水中翼船

2-2

プロペラ船

2-3

ヤマハボート

2-4

マリンジェット

2-5

人力ボート

072

3 空

3-1

N-52、LBS-1

3-2

高性能軽飛行機 OR-15

3-3

無人ヘリコプター

076

4 陸

4-1

全天候二輪車

4-2

FRP四輪車

077

5 ヤマハを退いて鎌倉に住みました

5-1

水中翼ウィンドサーフィン HSB

5-2

高速シーカヤック K-60

5-3

Manta

5-4

TR11

5-5

TR22

5-6

HF11

5-7

世界マスターズローイング

081

おわりに

.....

083

米寿の楽しみいろいろ

[2014(平成26)年11月2日 鶴見川漕艇場における講演]

084

1 FISAマスターズ参加記録

086

2 年齢ハンディ表

087

3 自撮動画システム

088

4 スカル用フロード

090

5 漕艇効率

091

6 1Xカート

092

7 日々の練習の記録

093

8 船作り TR11

094

9 船作り TR22

095

10 船作り TR17

.....

107

鈴木鶴見川マスターズRC代表の宿題と答

.....

111

【論文】 漕艇「^{となん}図南」の設計―より速いエイトを模索して―

[著書『あるボートデザイナーの軌跡』(1987(昭和62)年8月31日)からの抄録]

112

1 競漕艇開発の始まり

最高の開発体制

「暁」「旭」時代

113

2 奥深いエイトの設計

113

3 ミニマムエイト「石狩」

114

4 「雄飛」の設計

最高性能を求めて

水槽実験による実証

115

5 「図南」の設計

「雄飛」を基本思想として

ついに6分を切る

117

6 「図南」と「葉月」

119

競漕艇「図南」の設計図

120

大先輩の英国から“ボートをたのむ” 最高権威・リアンダー・クラブ 大使館を通じ注文

千葉四郎氏の横顔

ベルリン五輪(昭和11年)以降ローマ五輪(昭和35年)迄のエイトの進歩

.....

124

堀内家三代のボート

126

編集を終わって

127

刊行にあたって

米寿を迎えて

夏に島田恒夫君からメールを貰いました。私の講演録「ボート回想80年」と「ボート開発60年」の両方を読む機会があって、「ボートの開発の方を初めて知ったが中々面白い、一体、何時寝ていたのか」という話から始まって、両方を載せた読み物を作ってみたいという話に進みました。その前に彼が作っていた『ローマへの道』で彼の本をまとめる力は知っていたので、ありがたくお任せしました。

ただ「ボート回想80年」は2008年、「ボート開発60年」の方は2011年の講演ですから、その後大分時間が経っています。その為「その後の話を多少補完したいから少し待って欲しい」とお願いしてもう3ヶ月経ったでしょうか？ たまたまこの11月2日には鶴見の漕艇場で話をする事になり、最近の活動について「米寿の楽しみいろいろ」という話をしました。

これを回想と開発の最近の活動の報告とした他、その他のローイングに関する記述を幾つか入れた読み物を島田君がまとめてくれました。ローイングに限らずこの歳までいろいろと楽しんだ経緯がお読みいただけるのではないかと思います、『楽しみの軌跡』としてお届けします。皆様にも楽しんでいただければ、この上なく嬉しいことです。

特に最近、ボートでも他の競技でも80歳代に入って日本人が勝てるようになる、ということを確認しました。「米寿の楽しみいろいろ」は、この事の証明のような形になりました。皆さんが「今からでも遅くない」と身体を動かして日本人の優位を満喫し、長命を楽しんでいただくきっかけになればこの上ない喜びです。

何しろローイング・エルゴは、例え歩けなくても外出できなくとも、また膝や腰が悪くても、有酸素の運動をすることができます。水泳より遙かに歳にやさしい動きだと私は思いますので、今後とも愛用したいと思っております。何卒皆様もご検討ください。

平成26年(2014)11月吉日
堀内浩太郎

私の略歴

1926(大正15) 10月13日、東京本郷西片町に生まれる
1936(昭和11) 父の北大赴任に従って札幌に転居 スカルの漕ぎ始める
1944(昭和19) 札幌一中卒業 旧制二高に入学 端艇部に所属
1946(昭和21) 旧制二高整調として旧制高校インターハイ優勝
1947(昭和22) 東大工学部、応用数学科に進む
1949(昭和24) 東大エイト6番手としてインカレ優勝
1950(昭和25) 東大工学部、応用数学科卒業、(株)横浜ヨット製作所入社

この間の1952～1954 岡村製作所に出向、軽飛行機、滑空機の設計に従事
またこの年から6年間国体に出場、優勝3回、準優勝2回、4位1回

1957～1960 東北大漕艇部監督
1960(昭和35) ヤマハ発動機(株)に移籍、ボート事業開始時より設計担当
ローマ五輪大会 漕艇日本代表監督
1964(昭和39) 東京五輪大会 漕艇日本代表ヘッドコーチ
1974(昭和49) ヤマハ発動機取締役就任(1983退任～1985再任)
1974～1982 東北大漕艇部監督

この間全日本選手権大会に優勝1回、準優勝4回、全日本大学選手権大会に優勝4回

1984～1993 堀内研究室長
1990～1993 マリン事業本部長
1993～1996 常任顧問
1993～1997 アトランタ造艇研究会会長
1969～1994 全日本社会人実業団のOBスカルに出場、優勝17回
1996(平成8) ヤマハ発動機退社 以降鎌倉在住
1994～2013 世界マスターズ・ローイング大会に4回出場(10種目) 優勝5回、準優勝3回、3位1回

2001(平成13) 以降ソーラー&人力ボート協会会長、現在に至る

賞	第42回海の記念日表彰(東海海運局長)	1982年7月
	社会貢献表彰(日本顕彰会)	1993年11月
	静岡県体育表彰(静岡県体育協会会長)	1996年5月
	体育功労賞(文部大臣)	1996年10月
	勲5等瑞宝章	2003年5月
	日本スポーツグランプリ(日本体育協会会長)	2013年10月

著書

左●『あるボートデザイナーの軌跡』1987(昭和62)年

右●『あるボートデザイナーの軌跡2』2002(平成14)年

他に『Locus of a Boat Designer 2』(上記の英訳版、2006(平成18)年)もある。



ボート五輪代表きまる

エイトに東北大

エイトは東北大の力が一段上だった。鋭いスタートダッシュで1艇身のリード、1300m辺りから東大がスパートして2/3艇身差に詰めたが、東北大はゴール前の猛烈なスパートで振り放した。

キャッチのよく効いた力強い引きと全コースにわたって激みない艇速を実現させたのが勝因で、自信たっぷりに37のコンスタント・ピッチを引き通していた。この自信は、レース前の診断会などで出したベストタイムと、その時集めた資料により相手の弱点を知っていたところから生まれたものだ。

堀内監督は徹底的に科学的に指導した。動画に撮るのは勿論、艇速の変化をグラフに表して選手に欠点を教え、レース中は漕ぎ入れた瞬間コックスに前方(進行方向)へ上体をかがませてスピードの減殺を防いだ。地理的に不利な条件もこうした研究で克服し、不変の艇速が生み出された。

準決勝、決勝のタイムからも、オリンピックでは相当やれろと期待できる。

なお準決勝はスタートとゴールを逆にして順風でやったので好タイムが出たが、メルボルン大会の教訓は「逆風に弱い軽量日本」だったはず。協会はクルーを温室育ちにせず、逆風・荒波でもある程度やれる訓練を考えねばなるまい。

堀内監督の話

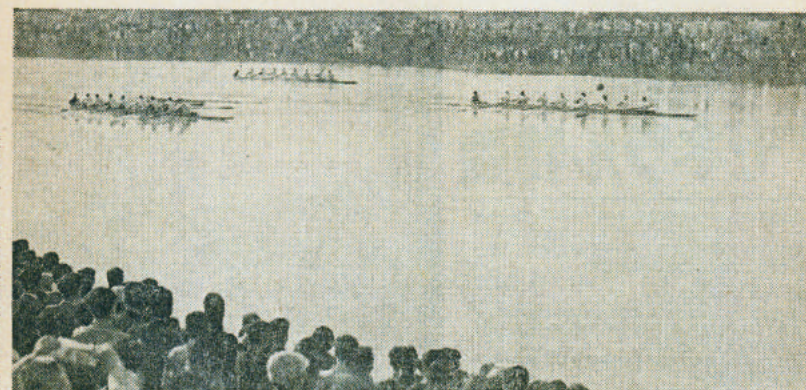
監督を引き受けて4年間、どうしたらボートを少しでも速く進めることができるかを考えた。今度の大会では負けるとは思わなかった。ローマに行っても相当にやれると思う。だがもう一度初めから仕上げていく積りだ。おやじ(堀内寿郎＝元北大コーチ、現北大教授)や、おじさん(東俊郎＝漕艇協会理事)達は、「おれの話している良い点ばかり採った」と言うのですがね。

朝日新聞 1960(昭和35)年5月9日

●朝日新聞 1960(昭和35)年5月9日

エイトに東北大 6分13秒6
フォアは東大が優勝

ボート五輪代表きまる



エイト決勝
手前から一コース東大(二着)二コース東北大
(一着)三コース慶大(三着)千九百円付近

[illegible][illegible][illegible]

●東北大クルー

東北大はボート界では地味な存在だった。過去のオリンピック代表を見ると、東大、早大、慶大に占められ、他校は食い込めなかった。東北大は、オリンピックはおろか全日本で優勝したこともない。旧制二高の部創立が明治28年、東北大は昭和6年だから伝統は古いが、地方で刺激が少ないためレベルは向上しなかった。

堀内氏が二高出身の関係から東北大をコーチするようになったのは4年前。「東京の各大学に負けないクルーをつくってローマ行きを期した」そうだ。途中、母校の東大からは是非コーチにと頼まれたが、「クルーに惚れ込んだから」と断った。この人のコーチ法は科学的、合理的である。ローギアの自転車に乗せて脚と競争心を鍛え、クルー一人ひとりの動きを動画にとってフォームを研究、加速度計で艇の動きや艇速を測ったことなどは一例で、ボート界の新兵器的な存在だ。

大正15(1926)年東京に生まれ、お父さんの勤務(北大)の関係で札幌へ。札幌一中、二高を経て東大工学部応用数学科へ進学した。

父・寿郎氏(現在北大触媒研究所長)は、北大をコーチして昭和29年全日本で優勝させ、艇・オールに工夫を加えてボート界に「科学する心」を吹き込んだ人として有名である。お母さんはボート兄弟で名高い東竜太郎氏(都知事)の妹で、男女9人の兄弟姉妹はみなボートが趣味というボート一家。

10歳の時からオールを握ったそうで、二高時代は昭和21年の復活第一回インターハイで優勝。

東大では24年に6番手として全日本に優勝した。25年に卒業してボート界の長老、千葉四郎氏の横浜ヨットに就職。今春、日本楽器ヤマハ技術研究所に転職したが、この間、国体に6回出場し3回優勝している。横浜ヨットでは仕事とコーチが半々。日本楽器にも「今度のコーチが終わってから出勤」と契約したほどの“ボートの虫”だ。

秀才コースを歩んだが、そういう肌ではなく、汚れたズボン、運動靴をはいて戸田の土手を走る姿は“野武士”“野牛”といった感じ。クルー全員は「細かいところにもよく気がつき、温かい人だ」と神様のように褒めている。何事も納得主義、陣頭主義。妙な精神主義は一切禁物だという。東大時代からのニックネームは“入道”。「入道ならローマで好成績を上げるだろう。外国からいろいろなことを学んでくるにも適任だ」と期待を寄せられている。

家庭には敦子夫人と哲(さとし)、倫子(ともこ)さんの一男一女がある。33歳。

産経新聞 1960(昭和35)年5月10日

横顔

○東北大はボート界で地味な存在だった。過去のオリンピック代表をみると、東大、早大、慶大に占められ、他校は食い込めなかった。東北大はオリンピックは勝たなかった。二高の部創立が明治二十八年、東北大は昭和六年だから伝統は古い。地方で刺激が少ないため、レベルが向上しなかった。堀内氏が、二高出身の関係から東北大をコーチするようになったのは4年前。「東京の各大学に負けないクルーをつくってローマ行きを期した」そうだ。途中、母校の東大からは是非コーチにと頼まれたが、「クルーに惚れ込んだから」と断った。この人のコーチ法は科学的、合理的である。ローギアの自転車に乗せて脚と競争心を鍛え、クルー一人ひとりの動きを動画にとってフォームを研究、加速度計でオールの動き、艇速を測ったことなどは一例で、ボート界の新兵器的存在だ。

ローマ五輪ボート代表
になった東北大の監督

堀内 浩 太 郎
ほりうち こう た ろう



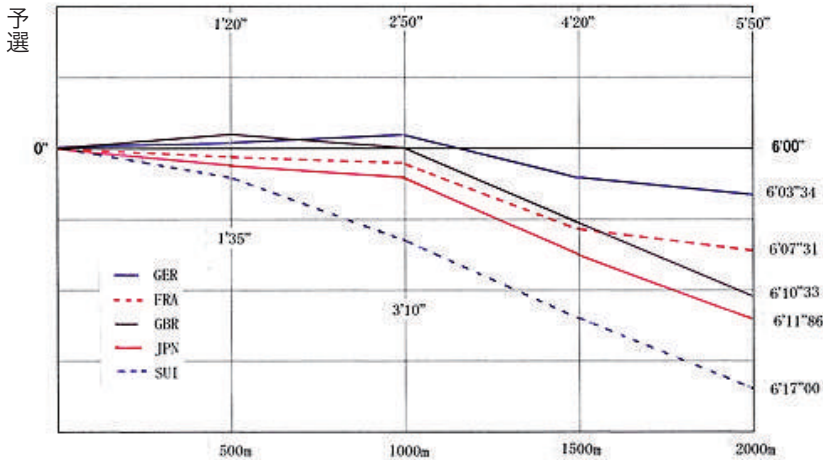
○大正十五年東京生まれ、時代は、二十一年の復活第一回インターハイで優勝。東大では二十四年に六番手として全日本に優勝した。二十五年卒業してボート界の長老、千葉四郎氏の横浜ヨットに就職。今春、日本楽器ヤマハ技術研究所に転職したが、その間、国体へ六回出場。科学的、合理的である。ローギアの自転車に乗せて脚と競争心を鍛え、クルー一人ひとりの動きを動画にとってフォームを研究、加速度計でオールの動き、艇速を測ったことなどは一例で、ボート界の新兵器的存在だ。

「科学する心」を吹き込んだ人として有名であり、お母さんはボート兄弟で名高い東竜太郎氏(都知事)の妹で、男女九人の兄弟姉妹はみなボートが趣味というボート一家。五つの時からオールを握ったそうで、二高時代は昭和二十一年の復活第一回インターハイで優勝。三回優勝している。横浜ヨットでは仕事とコーチが半々。日本楽器にも「こんどのコーチが終わってから出勤」と契約したほどの「ボートの虫」だ。

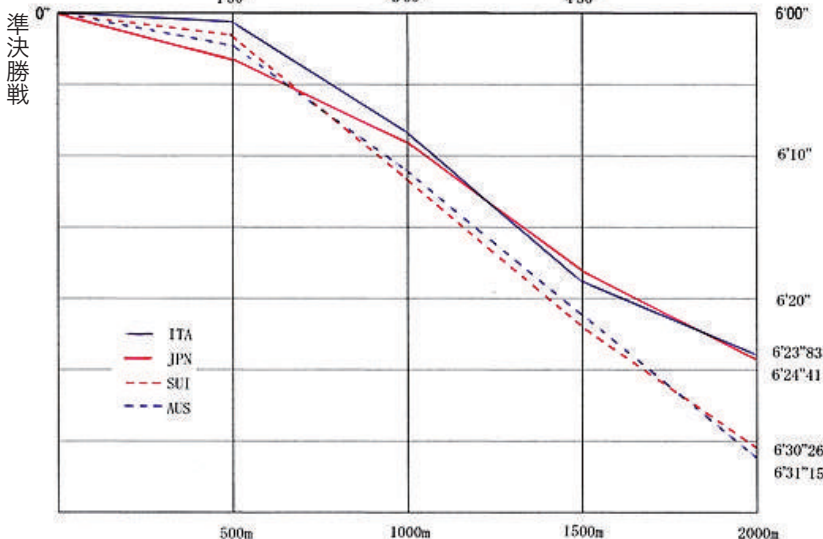
○秀才コースを歩んだが、そういう肌ではなく、汚れたズボン、運動靴をはいて戸田の土手を走る姿は「野武士」「野牛」といった感じ。クルー全員は「細かいところにもよく気がつき、あたたかい人だ」と神様のようにはまっている。何事も納得主義、陣頭主義。妙な精神主義は一切禁物だという。東大時代からのニックネームは「入道」。「入道ならローマで好成績を上げるだろう。外国からいろいろなことを学んでくるにも適任だ」と期待を寄せられている。

家庭には敦子夫人と哲(さとし)、倫子(ともこ)さんの一男一女がある。三十三歳。

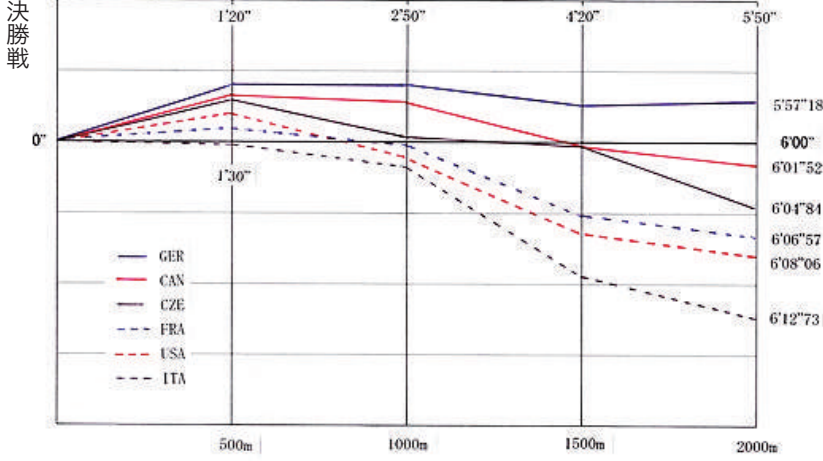
オリンピックの戦い



- ①ドイツ
- ②フランス
- ③イギリス
- ④日本
- ⑤スイス

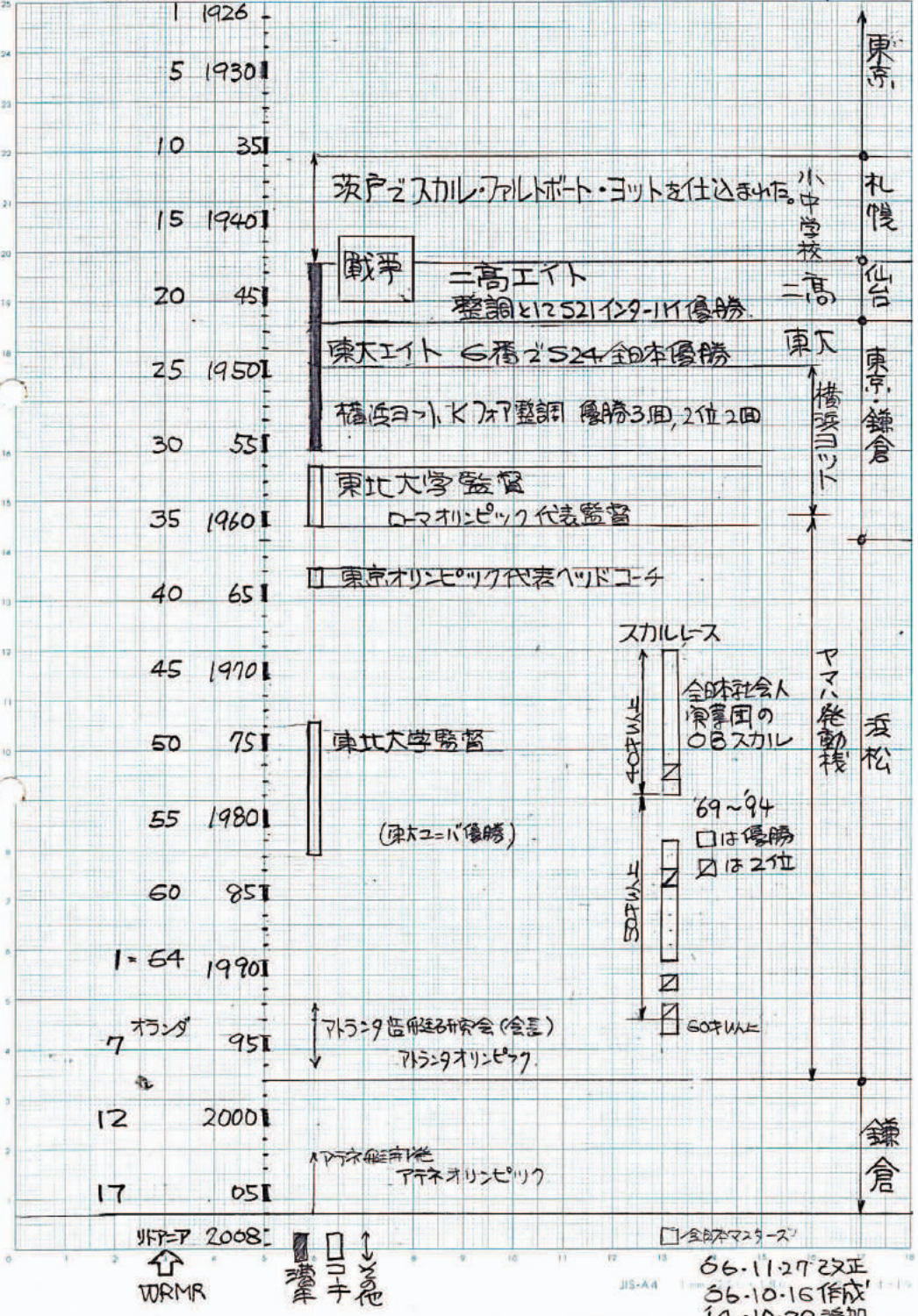


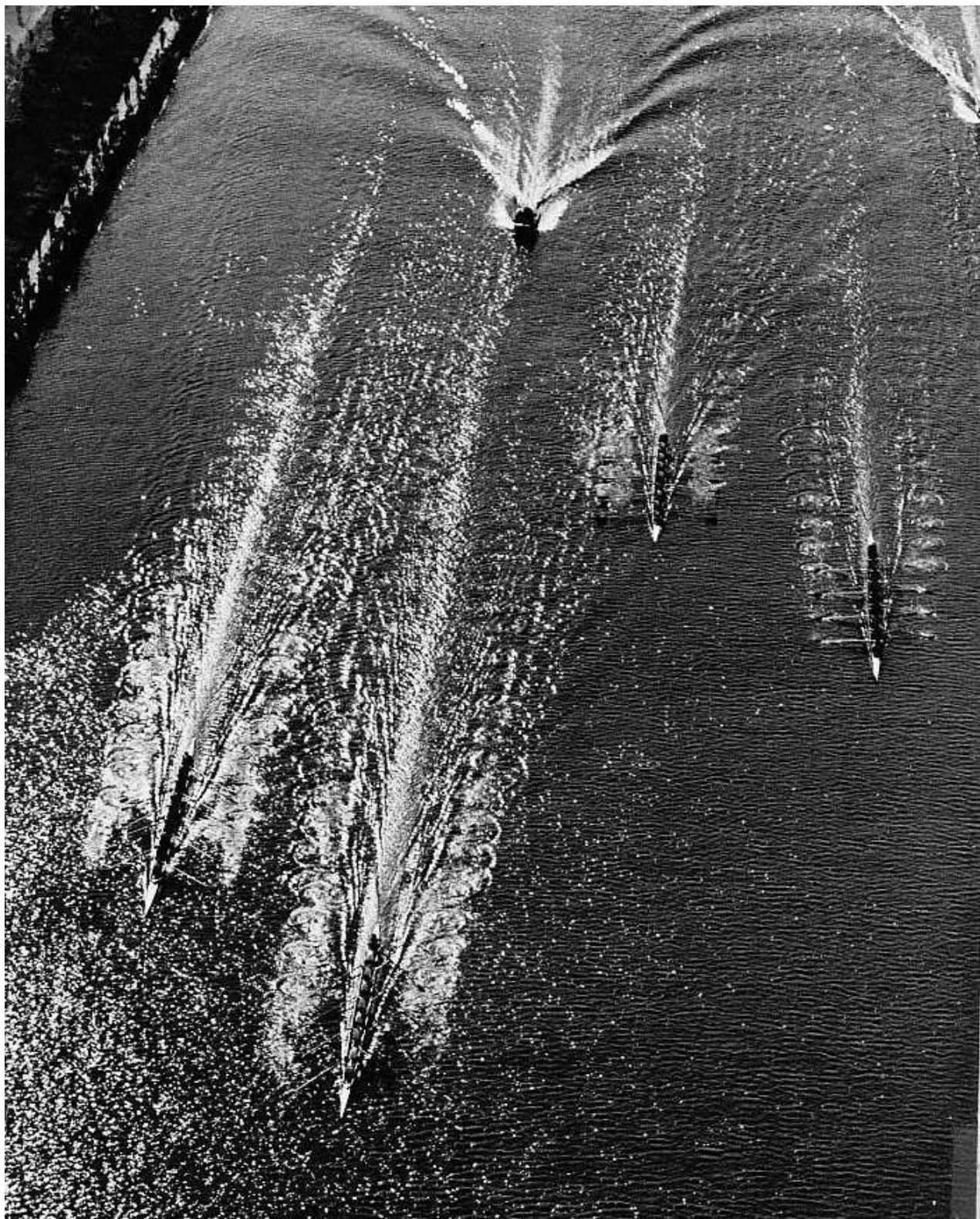
- ①イタリア
- ②日本
- ③スイス
- ④オーストラリア



- ①ドイツ
- ②カナダ
- ③チェコ
- ④フランス
- ⑤アメリカ
- ⑥イタリア

平 昭 西
成 和 正
イベント
所 在 住
居 住





●大願成就 東北大・北大がワンツーフィニッシュを飾った1978年全日本選手権大会。
左から2位北大、優勝東北大、4位住金鹿島、3位東レ滋賀 朝日新聞 1978(昭和53)年8月27日



●私の楽しみに耐えて支えてくれたママに 改めて感謝を捧げます